

松平のあゆみ

明治〜昭和時代

ガラ紡を

主要産業として発展

現在の松平地区にあたる5つの村(豊栄村・松平村・小川村・志賀村・穂積村)が誕生したのは、市町村制が施行された明治22年。同39年にはそれらが合併して東加茂郡松平村となった。この時代、農家の副業だった養蚕が盛んになり桑畑が拡大した。また川の水力を使ってガラ紡業が始まり、大正から昭和にかけて幾多の好不況の波にもまれながらも松平の主要産業として発展していった。

大正時代には役場・学校・道路などの建設や、義務教育の年限延長による校舎の増改築などが重なり、松平村の財政

規模は膨らんだ。さらに大正8年に発生した大水害の復旧工事で歳出額は明治40年の10倍近くにもなったという。

新たな交通機関として乗合自動車が始まったのもこの時代だ。もともと街道や巴川の舟運で岡崎との結びつきが強く、ガラ紡業の取引先でもあったため、大正4年に松平村で初めて開通した乗合自動車は岡崎―足助間(九久平経由)だった。その後、各社が開業して交通は飛躍的に発達した。

昭和の時代には恐慌や大水害などが重なり村の財政難が続くなかで太平洋戦争が勃発した。戦後の繊維業界は衣類の不足から「ガチャ万時代」(織機をガチャンと動かすと万のお金が入るといふ意味)を迎え、松平村のガラ紡業も

好況に沸いた。ガラ紡業と豊かな村有林は松平村の自主財源を十分に潤し、昭和28年の「町村合併促進法」施行時にも、松平村は合併よりも単独で村づくりに専念する道を選択。同36年に町制施行して東加茂郡松平町が誕生した。

合併前夜

経済依存が

岡崎市から

急激に豊田市へ

家電製品や家用車の普及にともない、昭和30年代には九久平の商店街を中心に町並みが近代化した。一方、主要産業だったガラ紡業は昭和30年代末から衰退し、明治以来の主な取引先だった岡崎市との





結びつきが薄れていった。

松平町の人々がトヨタ自動車関連企業に就職先を求め始めると、豊田市―九久平間のバスが増発され、さらに衣料を中心に買い物も豊田市街地へ行く町民が増加。こうして豊田市への依存が急激に高まり、合併を希望する声も大きくなって、昭和45年4月1日に東加茂郡松平町は豊田市に編入合併。市民センターに桑原愛知県知事、佐藤豊田市長、伊豫田松平町長をはじめ関係者約600人が集まり盛大な記念式典が催された。市内全世帯に新町名入りの豊田市地図が配られ、子どもたちには記念品も配られた。これに先立ち3月23日には閉町式が行われ、松平町の歴史は発展的な形で幕を閉じた。

合併後の発展

市街地と

中山間地域に二極化

合併後の豊田市松平地区は、松平郷をはじめとする歴史と、巴川・六所山・王滝渓谷などの豊かな自然を誇りとして、地域の主体的な活動によるまちづくりを進めてきた。

巴川周辺を中心とする市街地エリアには住宅団地が広がり、合併当時約6600人だった松平地区の人口はこの50年間で約9500人にまで増加した。東海環状自動車道の豊田松平インターチェンジ完成でますます便利な地域になっている。

その一方で、巴川以東の中山間地エリアでは少子高齢化や過疎化が進み、小学校の存続も大きな課題となっている。都市からのイターン・U

ターン家族を積極的に受け入れる移住定住促進の取り組みが始まったところだ。

下山区の豊田・岡崎地区研究開発施設（トヨタ自動車テストコース）の建設に伴い、平成20年には「松平地域まちづくり対策協議会」が設置され、各自治区が抱えている課題や要望の集約、調整が進められた。松平地区を通過する通勤車両の増加を見据えた課題解決もほぼ計画どおり進んでいる。また、地域体育館と屋根付き多目的広場を備える防災・スポーツの拠点も間もなく完成し、松平地区は新たな時代を迎える。

合併当時の広報とよたに掲載された「松平町合併記念特集」の復刻版と、その後の50年間の主な出来事を次ページ以降にまとめた。



昭和45年に松平町が豊田市と合併した際、広報とよたでは見開き3ページにわたって大きく特集が組まれました。その内容を復刻版として掲載します。座談会から伝わってくる、当時を生きる人々の思いとともにご覧ください。

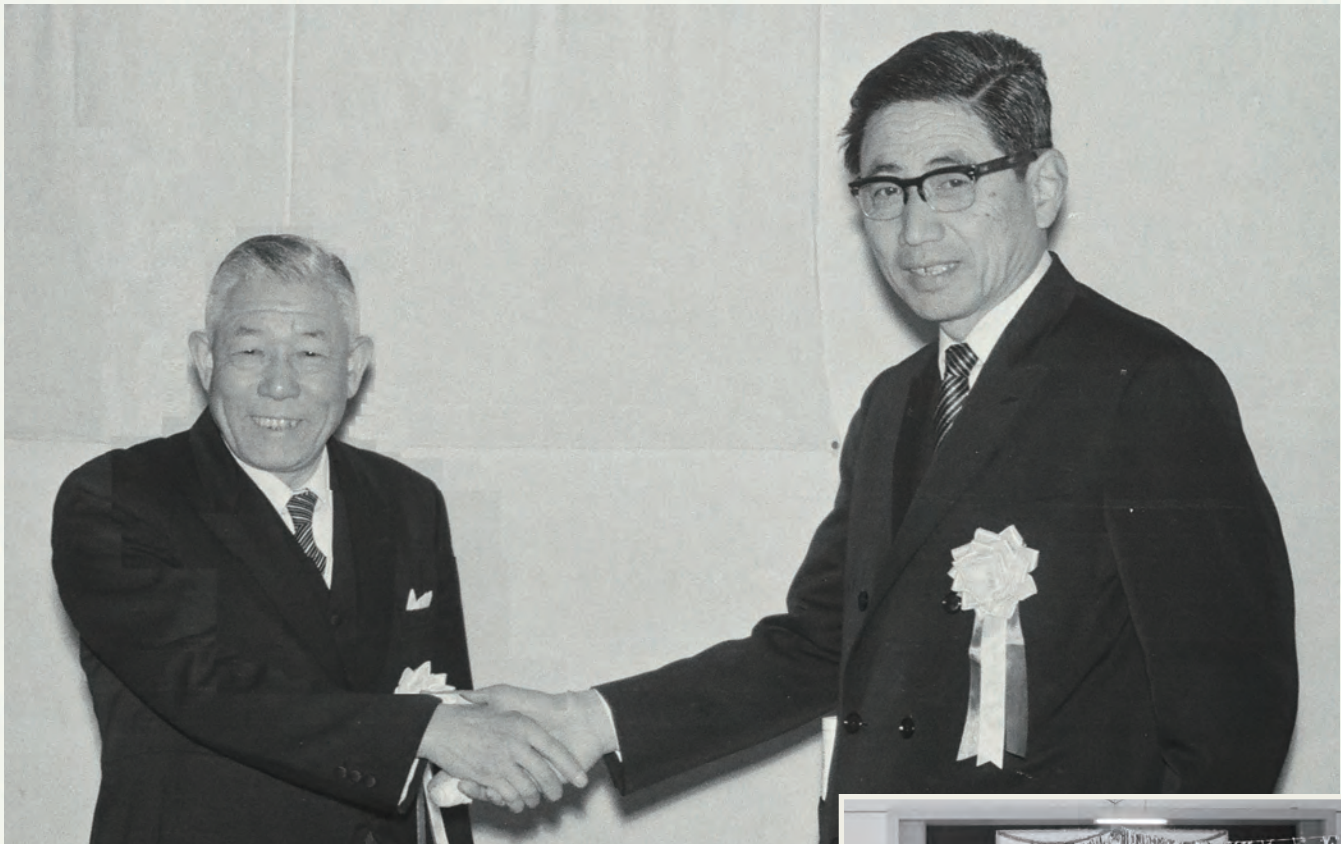


広報

とよた



昭和45年4月1日 第290号
月2回〈1日・21日〉発行1部7円



実現する広域都市化構想

4月1日 豊田市、東加茂郡松平町と合併

「30万産業文化都市」へまっしぐら

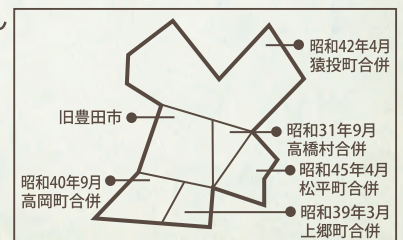
きょうー4月1日、豊田市は東加茂郡松平町と合併、佐藤豊田市長、伊豫田松平町長をはじめ、桑原愛知県知事ら関係者約600人が参加し市民センターで盛大に記念式典が催されます。一方、この合併を祝って市では、保育所、幼稚園、小、中学校の児童、生徒らを対象に記念品を配るほか、市内全世界帯に新町名入りの地図も配布し、市ぐるみで合併を祝います。

また、これより先、3月23日には松平町で「閉町式」が行なわれ、長い間親しまれてきた、観光と歴史の町「松平町」の町名は、ここで幕をとり、4月1日から豊田市としてスタートしました。



△上の写真…4月1日豊田市と東加茂郡松平町が合併、喜びの佐藤市長と伊豫田町長(左)。下の写真…3月23日、松平町の閉町式が行なわれました。

●合併の変せん





←徳川家発祥の地松平・高月院には松平氏初代親氏らがねむっている



←松平氏代々使用の産湯の井戸



←松平神社



←松平氏の廟所

座談会

松平をこのように



司会 広報課長

念願の松平町合併が実現しますが、本日は、今後、松平をどのように開発し、また、利用していったらよいか、松平地区から三人、豊田地区から三人

のみなさんにご出席を願い、お話を聞きするわけです。豊田市も上郷町、高岡町、猿投町と次々に合併し、それぞれ生活の場、休息の場として、利用できるように計画しています。松平地区も未開発のところですので、今後の開発次第でどのようにでもなると思っています。みなさんの卒直なご意見をお聞かせください。

司会 四月一日付けで松平町が豊田市に合併するわけですが、初めにその感想をお聞かせください。
永野(邦) 私個人もそうですが松平の人たちは期待と同時に一抹の不安も感じています。

永野(健) 松平は明治、大正、昭和と約七十年も岡崎市に経済依存してきました。それがトヨタ自工の発展により、最近急に豊田市との結びつきが深くなってきたので、不安もその辺のところから起きてきているのではないのでしょうか。

霜田 最近のめざましい自動車産業の発展と道路の開発整備の状況をみていますと、たまたま過去の行政単位が豊田市だとか松平町だとかに分れていたために、それがならわし的にずっときてしまっていただけで、現実的には松平町を含めて

すでに一つの地域共同体としての生活様式が身についてしまっているように思います。水が高い所から低い所へ流れるように、松平町と豊田市の合併もすでにその時期に来ていたし、むしろ遅かったのではないかと思います。私どもの会社へも十数人の方々が松平から来ていらつしやいます。同じ共同体の中で交流し合えるとなれば、さらに親近感もわいてくるだろうと期待しています。

司会 松平は山あり、川ありで自然環境に大変めぐまれた所ですが、みなさんはこの松平をどのように開発していったらよいと思われませんか。

加藤 豊かな自然を利用して、住宅地やいいこの場として開発を進めていくとよいと思います。

永野(健) 私も全く同感です。それに加



←王滝溪谷・豊かな水と緑が各所で美しい溪谷美を織りなしている



←十二面観音(慶長寺)



←岩谷山



←妙昌寺(王滝溪谷)



松平地区
永野 健三



豊田地区
霜田 充男

えて繊維産業の育成にも努めていただきたい。もちろん従来のガラ紡の形をそのまま残すということではありませんが、松平のおもだった産業といえやはりガラ紡ですので、これを新しい分野として見直していただけたらと思います。それがひいては私たち松平住民が豊田市の一員としてのつながりを一層深めることになると思います。

竹内 松平では農村工家協業組合を結成して、農業のひまな時期を利用し、農家の主婦たちが約二百人働いており、現在では専業農家はないといつても過言ではありません。しかし、まだまだ農業用に開発できる所もありますし、自然をうまく生かしていけば観光資源にもなると思いますので、この面でもご援助願います。

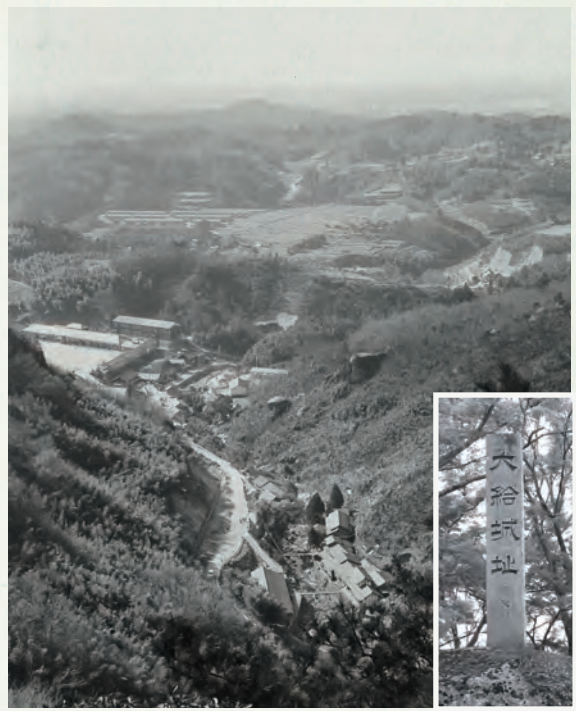
永野(健) 松平は都市としての構造はほとんど持っておりませんが、そのかわり美しい自然があります。たとえば、下山村へ抜ける道の途中の根引峠からの展望は

かなり雄大なもので、眼下に豊田市を一望できます。住宅開発をするにしても、こうした自然美をできるだけそこなわない方向で進めていただきたい。

霜田 私どもの会社のことでは考えますと県外から就職してきている人がたくさんいるわけですが、そうした人たちは単に働くということだけでなく、むしろ自分をいかにつばな社会人に成長させていくかということが大事だろうと思います。それには文化的な生活様式を身につけていかねばなりませんし、また健康的な生活もしなければなりません。そうしますとやはり緑に囲まれて、しかもきれいな水に囲まれた地域での余暇の善用ということが大きな問題になってきます。特に最近のように省力化が進められ、作業そのものが単純化されてきますと、人間性をどこで求めるかということが非常にむずかしくなっています。もちろん職場の中でもチームワークとかグループワークというものを持たねばいけませんけれども、一方個人生活の充実、楽しみというものがいまままで以上に大事になってくると思います。新聞紙上にマイホーム主義のことがよく書きたてられていますけれども、これはやっぱりさけることのできない社会的現象になってくるような気がします。そうしますと家ばかりぎっしり建っている所よりは、山あり、水あり、広場ありといった所に自分の生活の場を築きたいというのは誰しも考えることだろうと思います。その意味で私たちは松



←代表産業の特紡工場



←大給城址からの展望(中学校)



←果樹栽培もさかん・ブドウ園



←六所山ふもとのます養魚場



←六所神社下宮



豊田地区
柴田 さだ子



松平地区
竹内 秀子

平に非常に大きな期待をかけています。
 柴田 巴川の水はほんとうにきれいですね。またアユも釣れるそうですし…。先日矢作川の水質基準がきまりましたが、巴川だけはあんなことにならないようにしたいものですね。
 加藤 松平には高月院という家康のゆかりの地があるそうですが、そうした文化遺産を市民にもっとPRしていただきたい。昔からの名所や旧跡に親しく触れることは「古きをたずねて新しきを知る」で、若い人たちには大切なことだと思います。
 竹内 豊田市といえばトヨタ自動車と相場は決まっているんですが、東京なんかに行くとき、それと同じくらい松平が徳川発祥の地であることを知っていてくれます。それが私たちの自慢の一つで、いままでも松平町民であると同時に、徳川家康の流れをくんでいるのだということを感じてきました。高月院

のある松平集落で会合のあった時など、「ここは松平の中でも特に由緒ある所だからみんなそういう気持ちで生活しなければ…」などと話し合うことがありますが、三百年の伝統の中でつちかわれた精神力、例えば、ねばり強さといったものは、豊田市民になっても必ず何かの役に立つと思います。
 霜田 いまのように物質中心の世の中になりますと精神的なものをもっと重視していかなければと思います。どうも目の前の物を中心とした快楽的なレジャーに走りがちになってしまつて、本来優先的にとらえなければならぬことがおろそかになってしまつています。時代の流れといつてしまえばそれまでですけども、それでは子どもを育てる親としてはあまりにも無責任です。私たちが松平の優れた文化遺産に親しく触れることは、こんな風潮に対して、ほんとうの人間ということを見につけるきっかけにもなりましょう。
 永野(邦) 話がもとに戻るかもしれませんが、九久の商店街のある所はだいたい海拔三十五多くらいなんです。開発のレベルをもう少し高い所におけば、開発の余地はまだ相当あります。昔は人力にたよつていましたのでそうもいかなかったでしょうが、いまは機械がありますし…。
 竹内 松平高校の環境は豊田西や東高とは比較になりません。緑の木々に囲まれ勉強にはもってこいの所です。文教地区として整備すれば非常によいと思います。



←松平役場



←公宮岩倉住宅



←松平公民館



←公宮の和牛センター



←右から岩倉小学校・松平高校農協の各施設

永野(邦) 松平の開発についていろいろよい意見ができましたが、当面の問題はやはり豊田との連絡道路の整備だろうと思います。現在二本しかありませんので、この道路を整備すると同時に、将来もう二本はぜひとも作っていただきたい。

司会 松平の方にお聞きしますが豊田市全域をながめてみて何かご意見ありませんでしょうか。

永野(健) 全体に道路が狭いように感じます。市街地では特にその傾向が強く大変混雑しておりますので、市街地再開発を積極的にすすめ、駐車場も整備していただきたい。買い物に出ましても、岡崎や名古屋なら少ないながらも駐車場があります。豊田にはほとんどありません。ですから豊田で買い物をする時は家内でも連れて行って自分は車でぐるぐるまわっていないかならならない。(笑)



豊田地区
加藤 錬一



松平地区
永野 邦夫

司会 松平町との合併により豊田市自身も新しく生まれかわったわけですが、新生豊田市市民としてひとことずつお聞かせください。

永野(邦) いつまでも松平というカラにとしこもらず、豊田の人たちと積極的な交流をはかっていきたいと思っています。

永野(健) 松平には古い歴史がありますけれども、新しい時代に臨んでは、まだまだ赤子同然ですので、謙虚な気持ちで豊田市のよいところを吸収していきたいと思っています。

霜田 青年都市の名に恥ないよう、いつまでも精神的な若さを保ちたいと思います。

竹内 いくら産業が発展しても家庭生活がお留守になってはなんにもなりません。今後も家庭を大事にしていきたいと思っています。

柴田 東洋のデトロイトといわれる都市に恥じぬよう、いい意味でのほこりを持ちたいものです。

加藤 合併した以上、お互いに手を取り合って仲良くやっていかねばなりませんし、私自身もそうつとめていきたいと思っています。

司会 今日はおいそがしいところありがとうございました。今後とも豊田市発展のため市民のみなさんのなお一層のご協力をお願いしたいと思います。

松平の出来事 青字は豊田市の出来事

1970

昭和45年

- 1970.04 ① 豊田市へ合併
- 04 県道豊田新城線が国道301号に指定される
- 04 東加茂郡松平町と合併※人口18万6970人
- 05 松平高校が鶴ヶ瀬町の新校舎へ移転
- 07 六所山青少年キャンプ場が完成

1971

- 1971.04 人口20万人を突破
- 07 松平中学校プール竣工
- 08 松平高校旧校舎取り壊し

1972

- 1972.01 豊松小学校創立100周年記念式典
- 04 高月院に文化財保存庫開館
- 05 松平高校体育館、プール竣工
- 05 ② 梶ヶ城に展望台完成
- 06 松平商工会の事務所移転
- 06 ③ 給食センターによる給食開始
- 10 滝脇小学校創立100周年記念式典
- 10 市道長沢滝脇小学校線が開通

1973

- 1973.03 高月院土塀修復
- 04 新町名設定
- 11 九久平小学校創立100周年記念式典

1974

- 1974.04 老人福祉センター豊寿園完成
- 06 六所山キャンプ場に「若者の家」が完成

1975

- 1975.02 岩倉小学校創立100年祭開催
- 05 ④ 六所山に少年自然の家完成
- 06 炮烙山に「若人の森」完成
- 11 文化芸術センター
- (現・市民文化会館小ホール)開館
- 12 ⑤ 王滝渓谷に「中之瀬大橋」完成

1976

- 1976.02 5代目市長に西山孝氏就任
- 04 六所山野外センターに交通児童公園を新設

1977

- 1977.01 松平中学校体育館完成
- 03 ⑥ 消防署松平出張所完成
- 04 ⑦ 豊松小学校校舎新築移転
- 05 ⑧ 六所・炮烙山の資料館完成
- 05 滝脇小学校、野鳥保護観察で
- 文部大臣奨励賞受賞

1978

- 1978.03 「豊田市民の誓い」制定
- 04 ⑨ 滝穂橋竣工
- 04 ⑩ 豊松保育園(現こども園)開園
- 04 11中学校区で地区コミュニティ会議が発足
- 10 ⑪ 王滝渓谷に「王滝湖かけ橋」完成

1979

昭和54年

- 1979.08 ⑫ 国道301号の大内橋開通



▲ まもなく架け替え工事が始まる大内橋 (2021年1月撮影)



▲ 豊松小学校校舎新築移転 現在の豊松こども園から移転



▲ 六所・炮烙山の資料館完成



▲ 王滝町と穂積町を結ぶ滝穂橋完成



▲ 豊松小学校跡地に保育園が開園



▲ 王滝湖かけ橋開通式



▲ 市民センターで開催された合併祝賀式



▲ 梶ヶ城に展望台完成



▲ 六所山野外センターに少年自然の家完成



▲ 幸海小学校の給食の様子(1973年)



▲ 王滝渓谷に開通した中之瀬大橋



▲ 消防署松平出張所 現在のコミュニティセンター川側の駐車場に建築



50年のあゆみ

50年の出来事を写真で振り返ってみましょう。

松平の出来事 青字は豊田市の出来事

1980

昭和55年

- 1980.03 電話番号を変更し、
集団電話が一般電話になる
- 04 豊田地域医療センター開設
- 04 松平合併10周年記念式典開催



▲ 松平公民館で地域手作りの成人式開催

1981

- 1981.03 松平中学校新校舎竣工記念式典
- 12 ① 石楠町、炭焼きの初窯開き



▲ 第3回天下祭の様子(1990年)

1982

- 1982.02 岩倉小学校の移転による開校式開催
- 04 岩倉自治区が「岩倉東」「岩倉南」「岩倉西」に分離
- 04 第1回松平郷手筒煙火奉納
- 04 幸海小学校校舎新築(コンクリート造に)
- 05 河合隆司氏 市議会議員に就任

1983

- 1983.03 松平中学校の武道場完成
- 04 ② 松平保育園建替
- 04 ③ 広報紙「広場まつだいら」の表紙に吉田祐示氏の鉛筆画がスタート
- 08 第1回松平地区カラオケ大会開催



▲ 岩倉町と中垣内町を結ぶ完成間際の巴新橋

1984

- 1984.04 松平地区に10のジュニアクラブ合同結成式
- 08 人口30万人突破

1985

- 1985.03 松平支所・公民館が
仮事務所(松平志賀町)へ移転
- 04 ④ 松平郷館オープン
- 04 ⑤ 加茂川橋・⑥ とのさん橋竣工
- 04 松平親氏公顕彰会発足
- 05 神明橋竣工
- 11 ⑦ 炮烙山に「21世紀の城」完成



▲ 集めた空き缶で世界地図を作ったハートフェスティバル

1986

- 1986.03 松平郷亭(無料休憩所)開館
- 04 ⑧⑨⑩ 松平コミュニティセンター開館
- 04 岩倉駐在所新築移転
- 10 トリニティ工業の新工場稼働(桂野町)
本格稼働は1987年7月

1987

- 1987.01 ⑪⑫ 成人式が地域分散方式に
(松平公民館で開催)
- 04 巴町自治区発足
- 04 穂積町に県動物保護管理センターオープン
- 04 渡刈新清掃工場が完成



▲ 王滝町仁王川に架かる築山橋完成

1988

- 1988.01 愛知環状鉄道が開業
- 02 6代目市長に加藤正一氏
- 02 ⑬ 第1回天下祭開催
- 02 「交通安全フェスティバル」開催
(松平地区コミュニティ会議主催)
- 03 ⑭ 巴新橋竣工
- 04 松平大和幼稚園開園
- 11 コミュニティ会議のシンボルマーク決定
- 11 松平郵便局局舎新築

1989

平成元年

- 1989.06 新古瀬間聖苑が稼働
- 10 ⑮ 野外センターで「とよたハートフェスティバル101」開催
- 10 ⑯ 王滝渓谷「築山橋」完成



▲ 石楠町での炭焼き窯づくりの様子



▲ 建替えられた松平保育園



▲ 広場まつだいら表紙画の吉田祐示氏(写真は2003年の展示会)



松平地区

50年のあゆみ



▲ 松平東照宮敷地内に松平郷館オープン



▲ 町民念願の加茂川橋の開通式



▲ 岡崎市奥殿地区とを結ぶとのさん橋(桂野町)開通式



▲ 多くの市民の協力で完成した21世紀の城(1YYフェスティバル)



▲ コミセン完成式典であいさつする西山孝市長



▲ コミセン完成記念で開催されたふれあいまつり



▲ ふれあいまつり最後に巴川河川敷で行われた餅投げ



▲ 松平わ太鼓による成人式のお祝い演奏

松平の出来事 青字は豊田市の出来事

1990

平成 2 年

- 1990.04 12 巴町自治区誕生
- 12 12 松平中学校の男子頭髪自由化決定
- 12 CATVひまわりネットワークが開局

1991

- 1991.02 第1回ジョギングマラソン大会 (松平地区コミュニティ会議主催)
- 03 林道炮烙1号線開通
- 04 松平東部地区の水道施設工事完成、市内給水率100%に

1992

- 1992.03 07 王滝溪谷にログハウス風トイレ完成
- 松平中学校新プール竣工

1993

- 1993.02 04 松平の里観光協会発足
- 04 ①古城ノロシ上げ開催
- 04 ②王滝溪谷に野外バーベキュー場完成
- 04 市内5農協が合併
- 05 永野健三氏 豊田市議会議員に就任
- 07 ③「フォレスタヒルズ」グランドオープン
- 08 ④御参府道中一行が歩いて東京へ
- 10 ⑤⑥⑦松平親氏公600年祭松平サミット開催
- 10 天下茶屋オープン
- 10 松平郷ふるさとづくり委員会発足
- 11 ⑧⑨松平郷園地開園

1994

- 1994.05 09 松平郷を写す会と天下茶会が開催
- 10 「市民防災フェスタ'94」が松平中学校で開催
- 10 幸穂台造成着工
- 10 ⑩国体炬火リレーが炮烙山頂で採火され出発
- 10 国体カヌー競技で蟹早由里(豊松町)選手が優勝
- 10 新消防本部庁舎の業務開始

1995

- 1995.04 04 松平わ太鼓発足10周年記念公演を市民文化会館にて開催
- 04 市駅東口再開発ビル「ギャザ」オープン
- 10 六所山山麓でアジア大陸マウンテンバイク選手権大会開催
- 11 美術館開館

1996

- 1996.04 09 松平高校の制服がブレザースタイルに変更
- 09 ⑪幸穂台分譲地第一次分譲開始
- 11 ⑫松平中学校創立50周年記念式典

1997

- 1997.02 03 松平高校家政科閉講式
- 03 ⑬新港橋竣工と記念行事(雲助道中等)開催
- 03 ⑭松平運動広場完成
- 04 市道桂野九久平3号線開通
- 09 ⑮松平郷月見の会開催

1998

- 1998.03 04 ⑯岩倉小学校正門前歩道橋完成
- 11 中核市へ移行
- 11 コンサートホール、能楽堂、中央図書館開館
- 07 ⑰松平ともえ号運行開始
- 08 坂上町に市民農園開園
- 11 松平高校創立50周年記念式典
- 11 「とよた民俗芸能祭」が六所神社農村舞台で開催

1999

平成 11 年

- 1999.07 県道坂上大内線バイパス開通



▲ 約千人が参加した総工費約12億円の
新港橋の渡り初め



▲ 運動広場完成記念の
ふれあいフェスティバル(1997年5月)



▲ 高月院で開催された月見の会で
大正琴演奏を聴く参加者



▲ 巴新橋が開通し交通量が増えた県道に歩道橋完成



▲ ともえ号の愛称を公募し九久平小学校の
藤原英(すぐる)君が名付け親に



▲ 親氏公600年祭イベントとして市内の古城でノロシ上げ



▲ オープン時の
王滝湖園地バーベキュー場



▲ 地域イベントでお世話になっている
フォレスタヒルズのオープン直前



▲ コミセンの前を通る
御参府道中一行



▲ 松平サミット庭園の前で演奏する松平わ太鼓



▲ 大テント内に築造した庭園を挟んでの松平サミットおもてなし



▲ 松平サミット前に住民で松平東照宮
お堀の大掃除を行い錦鯉を放流



▲ 徳川家松平家御当主を
お招きして親氏公銅像の除幕式



▲ 裏千家家元千宗室さん(右端)のご献茶
徳川家18代当主恒孝さん(左端)と
松平家2代当主信泰さん



▲ 第49回国体(わかしゃち国体)の
炬火採火式を炮烙山で開催



▲ 第一次分譲が開始された幸穂台団地



▲ 松平中学校創立50周年記念誌巻頭写真の一部



松平地区

50年の
あゆみ



松平地区

50年の
あゆみ



松平の出来事 青字は豊田市の出来事

- 2000 平成12年
 - 2000.02 7代目市長に鈴木公平氏
 - 02 松平氏遺跡(松平東照宮、高月院、松平城跡、大給城跡)が国史跡に指定される
 - 04 太田川の近自然工法整備完成
 - 04 桂野保育園廃園
- 2001
 - 2001.03 市制施行50周年
 - 05 河合登氏が市区長会長に就任
 - 06 松平町加藤弘氏が豊田文化功労章を受章
 - 06 豊田市文化振興財団功労賞に松平わ太鼓受賞
 - 06 ①全国選抜ゲートボール大会に松平チーム出場
 - 07 豊田スタジアムオープン
- 2002
 - 2002.03 ②新松平音頭発表
 - 04 総合野外センター少年自然の家新築オープン
 - 04 公民館が『交流館』に名称変更
 - 04 あいち豊田農業協同組合が合併発足
- 2003
 - 2003.01 ③市民防災総合演習が松平中学校で開催される
 - 03 伊勢湾岸自動車道豊田東IC開通
 - 10 松平交流館が文部科学省の「優良公民館表彰」を豊田市内で初めて受賞
 - 10 第2回東京国際和太鼓コンテストで、松平わ太鼓が敢闘賞(3位)受賞
- 2004
 - 2004.01 ④「新成人を祝う会」をホテルフォレストで開催
 - 08 巴川金魚花火の復活開催
- 2005
 - 2005.02 ⑤松平郷展望テラス完成
 - 03 中消防署松平出張所移転完成
 - 03 東海環状自動車道の豊田松平IC供用開始
 - 03 松平橋拡幅整備完成
 - 04 ⑥松平地区でヘルスサポートリーダー活動開始
 - 04 東西加茂郡6町村と合併
 - 08 ⑦⑧御参府お帰り道中一行が歩いて東京から松平へおいでんバス「豊田下山線」の試行運転開始
 - 11 ⑨⑩第1回わくわくフェスタ開催
 - 11 各自治区旗作成(平成17年度わくわく事業)
 - 11 幸海小学校校舎を増築
- 2006
 - 2006.03 松平コミュニティセンター新駐車場完成
 - 04 各中学校区に地域会議を設置
 - 07 松平ともえ号運営協議会発足
 - 09 各自治区憲章を制定(平成18年度わくわく事業)
- 2007
 - 2007.03 国道301号松平郷入口からおまつり広場までの遊歩道完成
 - 04 スカイホール豊田オープン
 - 11 とよたおいでんバスの運行開始
- 2008
 - 2008.04 特別養護老人ホーム「笑いの家」開設
 - 04 松平地域まちづくり対策協議会発足
 - 04 保育園・市立幼稚園を「こども園」に統一
 - 05 豊田市議会第53代議長に中根大市議が就任
 - 06 ⑪松平ともえ号予約便運行と遠距離通学児童予約便開始
 - 07 健康マイレージモデル事業開始
- 2009 平成21年
 - 2009.04 豊松小学校が小規模特認校に認定
 - 05 松平の里観光協会から松平観光協会へ変更
 - 05 第1回ふれあい健康まつり開催
 - 12 JAあいち豊田松平支店新築移転



▲ 御参府お帰り道中出発(東京都増上寺)



▲ 御参府お帰り道中の到着を待つ住民(松平郷)



▲ 地区運動会に変わり2005年からわくわくフェスタ開催(松平中学校)



▲ 松平ともえ号 最初は桂野町の児童が利用し 多い年は50人以上利用(写真は2014年10月)



▲ ゲートボール全国大会出場への報告に鈴木市長表敬訪問(市役所旧東庁舎前)



▲ 松平運動広場で開催された第35回松平地区ふれあい運動会(2004年10月)での新松平音頭



▲ 松平中学校校庭で開催された市民防災総合演習



▲ 2004年から市内で唯一新成人を祝う会をホテルで開催



▲ ヘルスサポートリーダー養成講座の様子(2007年5月)



▲ 名古屋駅前、伊勢湾まで望める松平郷展望テラス完成



松平の出来事 青字は豊田市の出来事

2010

平成22年

- 2010.03 「あるこまい春の王滝渓谷」開催
- 03 「松平地域まちづくり構想」を策定
- 04 滝脇小学校が小規模特認校に認定
- 05 ① 岩倉町に中村医院開業
- 08 松平中学校野球部が全日本少年軟式野球全国大会に出場(横浜スタジアム)
- 09 第1回「滝っ子まつり」開催
- 10 中京大中京高校の磯村選手(巴町)がドラフトで広島カープに指名される
- 11 B29友好碑除幕式
- 12 ② 防犯啓発隊「T・マックス」結成



▲「新☆豊田市10年祭」で松平地区を自治区紹介でPR(スカイホール豊田)

2011

- 2011.03 市制施行60周年
- 05 ふれあい健康まつりで「ノルディックウォーキング」を体験
- 08 11河川21箇所河川水質調査スタート
- 08 第10回東京国際和太鼓コンテストにて、松平わ太鼓が一般の部で、築瀬和重さんが大太鼓の部で優秀賞受賞



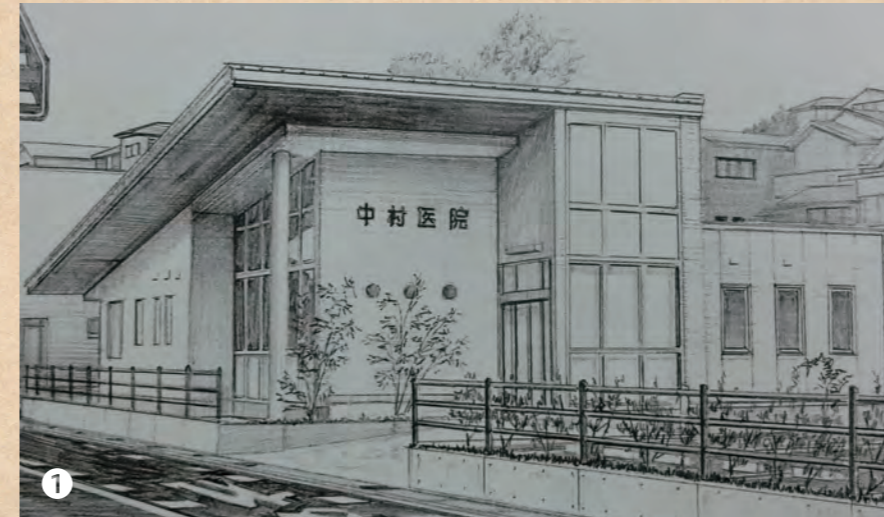
▲九久平自治区主催で難工事だった市道松平中学校線開通式

2012

- 2012.02 8代目市長に太田稔彦氏
- 04 桂野町が岡崎市から豊田市へ校区変更
- 07 全日本世代交流ゲートボール大会(埼玉・熊谷市)に松平チーム出場
- 08 松平地区ウォーキング推進委員会が発足
- 11 松平中学校で市長と中学生のふれあい会開催

2013

- 2013.04 ③ 松平ともえ号にデザイン入りの新車両導入
- 04 長沢町から岡崎市立常盤中学校への越境生徒がいなくなる
- 07 ④ 松平こども園舎新築移転



▲住民待望の医院が開業(吉田祐示氏画)

2014

- 2014.02 松平東照宮の手水舎建替え
- 04 松平地区コミュニティ会議の部会を6部会から4部会に編成替え
- 04 岩倉町にリサイクルステーション開設
- 07 全日本少年少女武道(弓道)錬成大会近畿競技で松平中学校弓道部が男子団体優勝



▲地元住民による貫通前の松平トンネル見学会

2015

- 2015.03 新豊田市10年祭開催
- 04 ⑤ 徳川家康公400年記念大会開催(~2016.04)
- 05 ⑥ 「ふれあい健康まつり」を開通前の新東名で開催
- 07 松平中学校で防災キャンプ実施
- 11 松平東照宮拝殿の天井画公開
- 11 ⑦ 青色防犯パトロール隊出発式
- 12 九久平小学校第二坂の迂回路完成



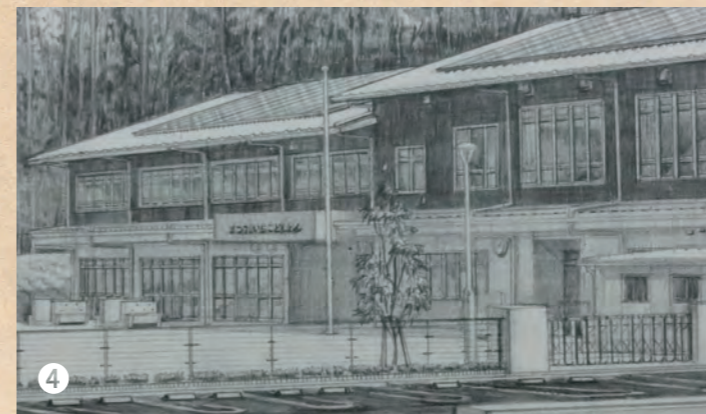
▲松平交流館祭で防犯劇を演じるT・マックス(2015年10月)



▲ともえ号運営協議会主催の出発式でのテープカット

2016

- 2016.02 新東名「浜松いなさ~豊田東」間開通
- 03 ⑧ 合併45周年記念事業「私たちの松平」発行
- 03 ⑨ 松平中学校前歩道橋竣工、市道松平中学校線開通
- 05 中根道善坂上町区長が豊田市区長会長に就任
- 06 松平東照宮が当番社として全国東照宮連合会開催



▲乳児保育も始めた松平こども園(吉田祐示氏画)



▲家康公400年記念大会で松平東照宮産湯の水を岡崎城まで運ぶ大行列(2015年8月/元城町歩道橋)

2017

- 2017.11 松平志賀町にテニスコート整備(わくわく事業による)

2018

- 2018.06 松平地域防災マニュアル発行
- 08 ⑩ 松平トンネル工事現場見学会
- 10 松平ともえ号運行20周年記念式典



▲小学生がふるさと松平を描いた絵画展(松平交流館ロビー)

2019

- 2019.03 小学校区別松平地域防災カルテ発行
- 04 松平東照宮徳川家康公勤請四百年祭
- 09 ラグビーワールドカップ2019開催

2020

- 2020.01 合併50周年記念事業実行委員会設立
- 03 小中学校休校【新型コロナウイルス感染拡大防止策】
- 06 合併50周年記念事業スローガンの選定、横断幕、のぼり旗による啓発



▲ふれあい健康まつり開通前の新東名岡崎SAから巴川橋までの往復4.6Kmをウォーキング



▲わくわくフェスタ内で青色防犯パトロールカー出発式を開催(フォレストヒルズ)

2021

令和3年

- 2021.01 ⑪ 合併50周年記念事業「松平未来びじゅつかんちびっこ画伯展」
- 03 国道301号松平バイパス開通式
- 松平地区豊田市合併50周年式典

松平郷の歴史



南北朝が合体された直後の室町時代初期、徳阿弥と称する旅の僧がこの地を訪れて郷主松平太郎左衛門信重の娘婿となり、家督を継いで松平太郎左衛門親氏を名乗った。親氏は自ら先頭に立って貧しい人に食料を分け与え、道路整備や架橋工事を行ったという。親氏公の名声は近隣諸国に届き、やがて周辺の村々を治めるようになって松平家の勢力拡大のきっかけをつくった。この親氏公が松平氏の始祖といわれている。

動乱の時代に僧として諸国を放浪してきた親氏公は、争いや貧困のない心安らかに暮らせる世を望み、その想いを無量壽経の一節からとった8句の「願文」に託して人生訓として定めた。親氏公の天下泰平の願いは泰親、信光、親忠、長親、信忠、清康、廣忠の松平八代を経て、九代目の徳川家康公によって成し遂げられた。

松平郷には現在も、松平東照宮、高月院、松平城址など松平・徳川両氏ゆかりの史跡が多く残っている。

松平東照宮はかつて松平太郎左衛門家の屋敷が建っていた場所にあり、「八幡社」と呼ばれる松平家の屋敷神だった。八幡神社となり江戸時代初期の元和5年に家康公を合祀して東照宮と合祀され、昭和40年には親氏公も合祀されている。境内には松平家が代々その水を産湯に用いた「産湯の井戸」があり、家康公が誕生したときにも岡崎城へ早馬で届けられたという。春の例祭では古式に則った「お水取り」の儀式が行われている。



松平郷を語る



松平 四月の権現さま例大祭には必ず参列し地元の方々のふれあいを大切にしたいと思っています。区長会の旅行にも度々参加させていただいています。昨年の例大祭だけは新型コロナウイルスにより村中のみの齋行になり参拝できません

酒井 ご当主は、松平郷にはどのような時に来られますか。地元の人たちとのふれあいでの感想を聞かせてください。

酒井 家康公没後四百年余、親氏公没後六百年と四分の一世紀余という長い歴史は、松平地区、太郎左衛門家にとって誇りうる歴史であります。親氏公の子孫であられるご当主の想いをお願いします。

でしたが、今私がここにいるということは皆さまへの感謝と感謝と思っています。そのことを思うことが大切だと考えています。



松平輝夫
松平太郎左衛門第25代当主

慶応義塾大学卒業
日本イベント協会理事
杉並区在住
1943年生まれ

田中祥雄
高月院第37世住職

東海学園学監
豊田市文化財保護審議会会長
同市史編纂調査会会長
1943年生まれ

松平地区といえば松平郷と呼び、徳川家始祖松平氏の発祥の地として広く知られています。豊田市合併50周年を機にこの地の歴史の重みを深めてもらうため、松平太郎左衛門家第25代当主の松平輝夫様と、松平親氏公顕彰会会長の田中祥雄様に松平郷を語っていただきました。

聞き手／酒井邦雄
50周年記念事業実行委員会記念誌部会副部長・元林添町区長



松平親氏公顕彰会視察研修（2017年10月） 駿府城公園

平和な徳川幕府の礎は 松平八代

松平 一般的に松平親氏公から始まる松平八代のごときは余り知られていませんが、松平家を中心として徳川幕府がつけられてきた過程が日本の歴史の中でとても大切な時期だと思っけています。なぜかという、江戸時代初期にポルトガル人の宣教師ロドリゲス（一五六一〜一六三三、イエズス会カトリック教会司祭）が来日し、関ヶ原の合戦、將軍宣下

などを記録して、当時の世相や社会の状況を書いていきます。当時日本にいた外国人が、実際にどのように見ていることもなく、耕作した土地も種をまいたままで荒らされ、敵方や隣人に強奪され、絶えず互いに殺し合った。日本全体が極度の貧困と悲惨に陥った。商取引についても法も統治も無く、各自が勝手に殺したり、罰したり、国外に追放したり、財産を没収したりしていた。「これが戦国時

代日本のひどい現実です。顕彰会で出版した松平家の『先祖書』にあるように長勝は信広の長男で信光は叔父にあたります。この長勝は信光について戦死しました。討ち死にです。その長男勝茂も一緒に戦死しています。我が家の家系を見ると次男とか三男が家を継いでいますが、それは長男の戦死による理由です。これが戦国時代の現実なんです。ロドリゲスが言うような戦国時代を終局させたのが家康公であり徳川幕府です。何

とか戦乱の世を終わらせようと努力した。それが我々松平にいる人の誇りではないでしょうか。家康公が將軍になつたから我々が誇りを持つていふものではなく、平和といふものをどうやってつくつてきたかということです。自分も死に、長男も死に、次男も戦死、また三代に渡つて討ち死にしている太郎左衛門家の系図からそう考えます。

外国人から見た 徳川幕府の時代

松平 ドイツ人のケンペル（一六五一〜一七一六、ドイツの旅行家・医師・日本探求家）は、ドイツからオランダに行き日本に来た人です。彼は元禄三年（一六九〇）から二年間長崎の出島にいて江戸との往来をしていました。「この



松平春まつり（1970年4月） 21代当主九州男氏



松平春まつり神輿渡御（1970年4月）



お水取り（1976年4月） 写真中央 松平輝夫氏

「事実、私は、世界のどの地方においても、ヨーロッパですら日本人のように気取りの無い優雅さと威厳を持つ人々に出会ったことがなく、ことに身分が終つて江戸時代です。平和国家がつくられてくる過程を見ています。それから一八五三年にペリー（一七九四〜一八五八、米軍人、日米和親条約締結をした人）が日本に来ます。ワシントンに送った公文書にこうあります。

分の高い人々の物腰は見事であつた。また、いくつかの階級への分割は、明確で譲ることのない一線で明示されており、それぞれの階級の、上下の違ひについての法律は、一貫して、また従順に護られて

いる。「我々は日本人が二本の人斬り包丁を差しているのがすごく怖かつた。しかしこの二本差しの武士が極めて貧しい生活をしている。こんなことは世界にはないこと。権力者は金があつて当たり前。日本では、むしろ農民とか商人の方がはるかに豊かだ。」とあります。考えてみてください。將軍の宝物だつて外国の貴族・王族の宝物と比べ少ないし貧しい。また戦国武将の旗印、武田信玄が風林火山、上杉謙信の毘沙門天の毘、直江兼続が愛、織田信長は木瓜の家紋です。家康公の旗印は地獄から離れて浄土を求める文字です。俺は決して自分のために戦っているのではないんだ厭離穢土欣求浄土（え（お）んりえどごんぐじょうど）のために戦っているのだと家康公は言っています。理念を持ったのが武将でした。そこで親氏公の願文の最後には、「崇徳興仁務

修禮讓（しゅうとうくこうにんむしゆらいじょう）」とあります。人々の徳をたたえ譲り合い自らの仕事に励む。六百年余の前に、この三河松平から発信された言葉です。

我が家に伝わる教えの一つに武弁があります。戦う能力を養い籠城はしない。太郎左衛門家は一度も籠城したことありません。必ず野に出て戦つていきます。三方ヶ原の戦で家康公は信玄に敗れ浜松に逃げ帰ります。家康公の遺訓にも「負けることを知らざれば害その身に至る」勝つてばかりでは駄目だよ、人間は負けることを知らなければ駄目だということを残しています。それで家康公がなんで打つて出たかという、松平軍団は籠城したことがないから、みんな討ち死になつてしまう。その中から精鋭をつくつてきたと私は思っています。

松平一族の理念と進めてきたこと

松平 徳川家康の国家戦略將軍のひとつに東遷事業があります。

灌漑事業です。簡単に二五〇万石を得たというイメージがありますが、そんなことはない。



家康公400年祭 楓（ふう）の木植樹（2015年4月） 右から2人目輝夫氏



天下祭玉競り（2016年2月）



権現まつり神輿渡御（2015年4月）
前から徳川家広氏、松平信人氏、松平輝夫氏

当主の心構え

東遷事業というものをやって関東地方に豊饒な土地を作り上げます。その徳川の偉大な事業のことは、松平から始まる。苦しい中から松平一族がどういうことをやって進んでいったかというのを、私は特に東京にいる人に知ってもらいたいと思つて講演活動を続けています。私は東京からバスで権現様の祭りには二十人近く連れてきます。来た方々は、地区の皆様が心が豊かだと言つてくれます。太郎左衛門家の当主として何をやってきたかということの答えになると思います。

松平 もう一つ。松平太郎左衛門家家臣の春井文右衛門が、殿様はこうあつて欲しいということを書いています。当主の心構えで家人の扱い、知行地の管理、質素儉約などの倫理規定ですが、これを見るとやはり、質素儉約や感謝するということとです。これは三河人に伝わることで、教育も含めた考え方ではないかと思ひます。トヨタ自動車の張富士夫会長（当時）から、トヨタがアメリカに初めて進出する時、普通だった物流の良い港の近くに進出

しますよね。トヨタが選んだのは三河人と同じ気質を持つ所ということだ。ケンタッキーに工場を選んだという話を聞きました。それは私たちの誇りだと思ひます。質実剛健、加えて感謝を知つていることがあると思ひます。

酒井 松平、三河の人の気質を培つた家康が平和な徳川幕府を築いたことが良くわかりました。田中祥雄さんほどのような想ひをもつておられますか。

田中 大久保彦左衛門は自分の履歴を「三河物語」として遺しています。（岩波書店刊日本思想史体系）大久保一族の中で

も、禄高は少なく最初は千石でした。家康、秀忠、家光の三代に仕え晩年には禄高も少し増えます。徳川家に仕えてきたいろいろな事柄を書いています。

三河人は「我慢強い」「才知が良い」「団結が強い」

田中 忠義を果たしてきたが私への扱いが悪い、外から来たものがわたしを飛び越えて出世していく、なんと嘆かわしいことか。老人になって書いた記録ですから愚痴や恨みに満ち満ちていますが、一つは我慢強いということを書きます。トヨタ自動車でラインの経験のある方はわかっておられる。我慢強いですよ三河人は。二つには才知がいい。今、改善というと世界の共通語になっていきますが、その改善です。三つ目が団結です。天保時代の三河一揆は松平から起り十一万人を動員しています。この三つが三河人の気質でもあると思います。彦左の記録を読み込むとこの三つになります。他国の人々とは違います。これは松平の人たちの生活そのものではないでしょう。では、どうしてこれらの気質が現在まで継承さ

れ、また、より強固なものになったか、ということ。ここに三つあげます。

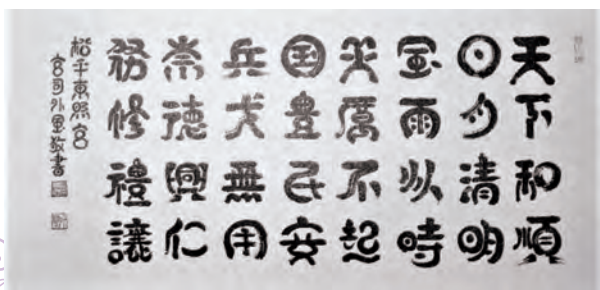
○松平親氏の願文（南北朝時代）

○徳川家康公の旗印・遺訓（江戸時代初期）

○トヨタグループの豊田綱領（昭和時代）

この共通点が、「我慢強い」、「才知がよい」、「団結が強い」の三つに繋がっていると思います。願文、遺訓、綱領に一本の強くしっかりとしたラインが底辺にあると思います。

最初の親氏の願文は高月院の住職寛立が親氏公に授けたもので、天下和順以下経文



ですが和語に置き換えます。

天下は泰平になり、太陽も月も清らかに輝き、

時節良く雨が降り風が吹き、災害や疫病も起こらない。

国は豊かに栄え、人々の暮らしは安らかとなり、武力を使うこともない。

人々は他人の善いところを尊び、互いに思いやりながらつとめて礼儀正しく生活をし、また尊敬しあい譲り合うことである。

最後の句、互いに尊敬しあい譲り合う気持ちです。これが我が親氏、泰親、信光、親忠、長親、信忠、清康、廣忠の松平八代を経て家康公につながったものです。つまり現代共通語の「共生き」ということです。この願文を社会に流布するのが高月院の住職の役割です。私もこの言葉を毎日何回も繰り返し申し上げています。

家康公の旗印「厭離穢土 欣求浄土」は暮らしやすい社会を作る、ということ。遺訓にも「不自由を常と思えば不足なし」戦後はみんな貧しい生活でしたから「心に望みおこらば困窮したる時を思い浮かべし」となります。「堪忍は無事長久の基」この堪忍という字は、私もよく所望されて

遺訓を書きますが、必ず紙の真ん中に書くようにしています。堪忍という字はやはり家康公の生涯でそのものです。つぎに「豊田綱領」です。

一、上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙げべし
一、研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
一、華美を戒め、質実剛健たるべし

一、温情友愛の精神を發揮し、家庭的美風を作興すべし
一、神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし

これら三つの共通点が三河の人々の心に流れている大きな流れです。それが松平の心ではないでしょうか。皆さんと一緒に松平から世界に発信していきたいと思っています。

酒井 私が勤めていた時に聞いた話で、日本の各自動車会社の職員が向出して構成されている日本自動車工業会があるんですが、五時になるとさあ飲みに行くぞというのは某社の人で、最後まで残って仕事しているのはトヨタの人という話がありました。三河人は質実剛健なんです。また、地域会議が中学生に松平の魅力アンケートしたとこ

ろ、徳川家の先祖が生活した発祥の地であるということが書いてありました。そこに松平の凄さがあります。九久平を通りますと、松平中学の生徒はみんな挨拶します。あれが大事なことです。おはようございます、こんにちは、という気持ちは親氏公の願文そのものですね。

今日は貴重なお話をさせていただきありがとうございます。対談を終えて松平さんがバイオリンを弾いてもてなしてくださいました。二曲の演奏でした。名古屋地方の子守唄とトロイメライでした。アマチュアには見えません。弓さばきも玄人はだし。「バイオリンは音を自分で出すもの、ピアノとは違います。」と話されました。その蘊蓄に殿さまの一面を見ました。



TRADITION



INTERVIEW

松平わ太鼓

FUTURE

都市対抗野球で豊田市代表トヨタ自動車を応援する松平わ太鼓(2018年7月/東京にて)

豊 田市内に数ある和太鼓グループのなかでも、とりわけ精力的に活動しているのが「松平わ太鼓」だろう。地元松平の祭りや催し物への出演はもちろん、市内外の様々な式典のアトラクションや、イベントのオープニング、東京ドームで開催される都市対抗野球のトヨタ自動車チーム応援等々、年間50回以上もの出演依頼をこなしている。

松平わ太鼓が結成されたのは昭和59年。36年目になる。松平コミュニティセンターの新築を記念して和太鼓を叩こうという公民館の三浦主任の提案をきっかけに、古文書に残る600年前の雲竜太鼓を復活させようと、交流館講座のような形で始まった。「わ」がひら仮名なのは、和太鼓の「和」と、仲間の「輪」を松平から広めようという思いが込められている。

発足当初は20代〜40代の素人集団だったが、新城への出稽古を経験し、県の連盟に所属して基本を教えてもらい、レベルアップしつつ子どもも教えるようになって、徐々に規模を拡大。これまでに200人以上が在籍してきた。

練習日は毎週水曜日と土曜日。18時から中高生が練習を始め、19時から大人が集まってくる。開始時間の前からピリツとした緊張感に包まれ、無駄口は一切無いのが印象的だ。

中高生を指導しているのは副代表の築瀬和重さん(50)。巨大な和太鼓「大和」の一人打ちコンテストで日本一になった実力者だ。物静かながらも厳しい指導は武道に通じるものがある。個々の所作やチームとしての動きにも注意をはらい、聞かせるだけでなく魅せ方も重視していることが分かる。



30周年記念公演
(2014年5月/豊田市民文化会館)



愛・地球博(愛知万博)での演奏
(2005年3月/万博八草駅)



コミセンオープン記念時の設立メンバー
(1986年4月)



真剣な目つきで練習する中高生たち。
築瀬和重さんの指導は物静かだが厳しい。
コロナ禍とあって定期的な換気にも気を付けていた。

現在の演奏メンバーは小学生〜50歳代の50名ほど。松平中学校や松平高校の和太鼓部出身者も多い。松平以外の地区から参加している会員もいるそうだ。個人奏者として全国大会の上位を目指すメンバーや、プロ奏者になったメンバーも少なくない。



設立当時の鈴木代表

立ち上げ時の初代メンバーで代表を務める鈴木隆之さん(64)は、「みんな向上心があるので刺激し合いつながりレベルアップしていますし、そういう姿に憧れて若い子たちも頑張るのだと思います。楽しんで叩きながら次の世代にも伝えていって欲しいですね」と話してくれた。



35周年記念公演
(2019年6月／豊田市民文化会館)



天下祭での奉納演奏
(2016年2月／松平東照宮)



巴川金魚花火での演奏
(2014年8月／九久平公民館前)



松平わ太鼓設立当時の
宇野勝前代表



タイヤと竹で練習する
設立メンバー(松平中学校)

宇野勝前代表の話
「ゼロからのスタート」
市が市内全公民館に2台ずつ太鼓を寄贈したのを受け、当時の主任理事さんの提案でコミセンオープンに向け若い人を募って始めた。太鼓のない中、試行錯誤して竹の音とタイヤの感触で練習していた。オリジナルの曲作りも手探りの末、自分たちで4曲作ってスタートした。

オープニングでは、他の公民館の太鼓を借りて演奏披露した。太鼓を揃えるのにも苦労した。公民館の支援で宝くじ補助を受けたり、穴の開いた古木を購入しチェンソーで中をくり抜き太鼓の胴を自分たちでも作った。太鼓台も自分たちで作った。フィギュアの伊藤みどり選手の曲を作った方をお願いして指導を受けたり、志多らとの交流や指導も受け、上達するためには良い指導者が必要と痛感した。他の団体を視察して指導法を学び、水曜の練習日は20年以上無欠席だった。女性や子どもも参加するようになり、太鼓の数も今では40台以上の大きなチームになった。不登校だった子や道を外れそうになった子が太鼓を通じて学校や社会になじみ活躍していることが嬉しく思う。

周りの人に助けられて今がある。感謝感謝。地域の皆さんに支えられて成長してきた。今後も若い人たちが頑張ってくれるので引き続きご支援をお願いします。

TRADITION



INTERVIEW

松平棒の手

FUTURE

天下祭での若手の演技披露。起倒流は槍術が得意な流派だ。



大正12年に建立された棒の手の碑と、保存会会長の岡田清さん。碑の裏面には歴代の目録者の名が刻まれている。

石 楠町には愛知県無形民俗文化財の伝統芸能「棒の手」が継承されている。流派は安土桃山時代の天正年間に名古屋で創始されたと云われる「起倒流」だ。

石楠町に起倒流棒の手が伝わったのは江戸時代の末期。大楠村(現石楠町)から長久手へ出向いた4名が修得にはげんで免許目録を許され、同時に三河での起倒流宗家となった。以来、石楠の棒の手は多くの門人の指導にあたり、石野、足助、旭、設楽などの263名以上に免許目録を与えている。大楠神明社のすぐ東にある「棒の手之碑」は、そうした起倒流の歴史を伝承する目的で大正12年に建立されたものだ。現在も目録者の名を刻み続けており、伝統の重みを感じる。

戦争で衰退していた起倒流棒の手が再興するきっかけになったのは昭和32年の愛知県無形民俗文化財指定だった。当時の松平村の積極的な支援もあって地域の様々な行事への出演機会が増えたという。

昭和の終わり頃には地域住民の多くが地



棒の手の型の一つ「腰車」
(2020年10月/石楠祭礼)



起倒流棒の手交流会「突き捨て」
(2007年10月)



豊松小学校体育館で練習する棒の手クラブ(2014年4月)



県棒の手保存会名古屋大会(2016年3月)



豊松小学校学芸会(2019年11月)



豊田市子ども棒の手演技大会(2017年11月)



第33回天下祭(2020年2月)



起倒流棒の手交流会(2007年10月/大楠神明社)

元を離れていくようになり再び起倒流棒の手は衰退しかけたが、それを何とか食い止めようと消防団仲間の若者7人が動いた。いま松平棒の手保存会の会長を務めている岡田清さん(69)もその一人だ。岡田さんたち若者は子どもの頃から見よう見まねでやってきた棒の手をあらためて習い直し、神社祭礼の3カ月ほど前から毎晩境内で練習するようになった。岡田さんの父親たちも喜んで教えてくれたという。

岡田さんら子育て世代が本気になったことで、その子ども達も一緒に棒の手をやるようになり、歯車がうまく回り始めた。平成6年には豊松小学校の教員から「学芸会で棒の手をやりたい」と協力を依頼され、小学校での指導もスタート。その後、小学校に棒の手クラブが発足し子どもを通して保護者たちの応援も高まった。また中学校の文化祭でも隔年で演技が披露されるようになった。小・中学校との連携で地域の伝統芸

能の歯車がうまく回っている好事例だ。岡田さんは「棒の手を通じて地域でコミュニケーションをとれることが何より嬉しい」と話す。石楠町に棒の手をやっていない子どもは居ない。22戸とい

う小さな集落だからこそ棒の手への理解が深いそうだ。岡田さんたちは子ども達に棒の手を教えるために基本を勉強し直した。それがいま若手にも定着しているようだ。

岡野貞造第9代師範長の話 「皇居勤労奉仕団、 伊勢湾台風災害救援 感謝の演技」

昭和34年11月18日、愛知県棒の手保存会11支部より演技者2000名から47名が選抜(松平支部から岡田新作、河合鈴太郎、岡田肇、岡野貞造の4名)され、天皇陛下に拝謁して優詔を拝した。同年11月20日、明治神宮、靖国神社に伊勢湾台風災害、早期復旧祈願の演技奉納。また防衛庁、警視庁に伊勢湾台風救援感謝の演技を披露して幕僚長、警視総監から感激の謝辞を受けた。次いで文部省文化財保護審議会委員長から、世相混迷の今日、農民の素朴な感情から生まれた民俗芸能を、大いに振興されたいと激励を受けた。



4世代の岡野貞造師範長一家(2008年10月)



松平郷手筒保存会 会長
天下祭立ち上げメンバー
第7回 天下祭 座主
天下祭実行委員会 相談役

鈴木想市 さん



天下祭実行委員会 実行委員長
第27回 天下祭 座主
松平郷手筒保存会 会員

平松克洋 さん

手筒花火 × 天下祭

対談

——松平の手筒花火は昭和58年、天下祭は昭和63年に始まり、関係が深いとお聞きしています。この2つの組織の立ち上げに深く関わった鈴木想市さん(67・松平町)と、現在の天下祭実行委員会委員長の平松克洋さん(47・大内町)からお話しをお聞きしたいと思います。まず手筒花火の立ち上げ当時の話をお聞かせ下さい。

鈴木 昔は松平郷にも青年団があつていろいろ活動していましたが、時代とともに役割が無くなり、若い人も減つて、青年団そのものが無くなつていました。それで僕が30歳の頃、地域の人が「青年会をつくりたいから参加してくれんか」と呼びかけ、30〜40歳代が40人ほど集まりました。それで正月に神社で何かをやつたり、盆踊りをやつたりしましたが、何かもの足りなかつたんです。そんなとき、養鶏場をやつていた人が豊橋市にヒナを買

い付けに行き、むこうの秋祭りを見たら手筒花火をやつていた。「これだ！」と青年会のみんなに提案したのが始まりです。

——みなさんの反応はどうでしたか。

鈴木 反応は今ひとつでした。

たね。僕自身も手筒花火というものがあると聞いてはいたけど、どんなものか知らなかつた。西三河で手筒花火をやつている地域が無かつたので許可は難しいだろうということでしたが、先輩たちがいろいろな人を介して申請したら、条件付きで許可してくれ

たね。僕自身も手筒花火というものがあると聞いてはいたけど、どんなものか知らなかつた。西三河で手筒花火をやつている地域が無かつたので許可は難しいだろうということでしたが、先輩たちがいろいろな人を介して申請したら、条件付きで許可してくれ

ることになつたんです。筒を作るのはいいけど、火薬は自分たちで詰めてはいかんと。要するに、火薬は花火屋さんで詰めてもらう条件で許可が下りたわけですよ。

豊橋の手筒花火の人たちが使っている花火屋さんには火薬詰めをお願いし、法被も揃えて、青年会として東照宮で奉納花火を始めたんです。豊橋の祭りは秋、こちらの祭りは春です。お互いに招待しあつて交流も始まりました。

鈴木 その後は順調に発展したんですか。

ある年、メンバー数名で豊橋の祭りへ行つた時に、私たちの手筒で事故が起きたんです。地面に横に置いて点火し、持ち上げようとした瞬間にドカンと爆ぜた。ちゃんと装備をしたうえで法被を着ていれば良かったのですが、その時は法被しか着てなくて、袖口から腕の方へ火の粉が入つてしまつた。そんな事故があつたもの

から、若い子たちが「怖いからやりたくない」と言い出したんです。そうなるとう青年会として実施することが出来ません。それで思案して、自己責任の考えを持つ有志だけで、青年会とは別組織の松平郷手筒保存会を立ち上げました。手筒花火を始めて6年後くらいの話です。

——その後は順調に発展したんですか。

鈴木 そうでもないですよ。手筒花火を上げたい人が足らず、他所の地域からも人を集めようとなつたのですが、これには反対の声も多かつた。当時は保守的な考えの人が多くて、軒を貸して母屋を取られるのでは…という思いがあつたんです。それで、僕が「あくまで東照宮に花火を奉納するための団体です」という規約を作つた。そのために保存会の名に「松平郷」とついているわけです。当時は他所の地域へ出ていつて上げようという考えは無かつたです。ね。

——その後はどのような盛り上がりがあつていったのですか。

鈴木 5〜6年経つた頃、高田純次さんのテレビ番組が口ケに来たんです。それで知られるようになった。そのあと豊

田おいでんまつりの花火大会にも参加するようになりました。おいでんまつりからのお誘いは前々からあったんですよ。

—— そうやって春の奉納花火と、夏のおいでんまつりの2回が恒例になったのですが、そのうちに会員から「うちの会社のイベントでやれないか」と言われてトヨタ自動車の工場のイベントでもやるようになり、他の企業からも招かれるようになったんですよ。

—— 市外からの依頼もありましたか。

鈴木 一昨年、広島や岡山で豪雨災害がありましたよね。それで、岡山の被災地の商工会議所青年部から「復興の手筒をやってほしい」と依頼がありました。十数本持って20人ぐらいで行ってきましたよ。東日本大震災の時に福島から依頼がありました。その話は実現しなかったですね。

—— いま会員は何名ですか。
鈴木 登録しているのは女性も含めて43名です。一番若いのは20歳かな。上は70歳までいます。

—— 次は天下祭の話をお聞きしたいと思います。手筒花火と天下祭はどのような関係があるのですか。

鈴木 春の祭りでは手筒花火をやるようになって、そのあと、僕らの仲間で「冬にも何かお客さんと呼べる行事ができないかな」と話し合ったのが始まりです。当時の東照宮は今みたいにきれいではなく、瓦は割れていたし社務所も古かった



ので、お客さんに来てもらってお賽銭を落としてもらえば修繕できないかなという発想でした。それで「松平郷は徳川家康公の始祖松平氏発祥の地だよな：「東照宮には親氏が祀られているぞ：「親氏は六所神社で天下祭(あまがしたのまつり)をやったらしい：」なんていう話も出てきた。当時は松平親氏公なんてあまり知られていなかったのですが、そ

うした史実をつなげて何かやろうとなったんです。10人ぐらいで酒を飲みながら、ああでもない、こうでもない、と夜遅くまで話し合っていました。それで、東照宮の井戸の傍にあった古い松の木で神玉を作り、家康公の産湯に使われた井戸水で清めて水の化身として、それに触ると願いが叶うことになったんです。

—— そうやって天下祭が始まったんですね。

鈴木 最初は玉に触ってもらうだけだったのですが、その後、玉競りのほうが盛り上がるということ、今みたいな形になりました。

—— いろいろ工夫してお客さんを増やして来たんですね。

鈴木 最初の頃は食べ物の店が少なかったんですよ。出店をお願いした地元の業者さんから「そんな所にお客さんなんか来るわけじゃないですよ」って馬鹿にされましたが、まつり広場が身動きできないほどお客さんが来るようになった。実行委員や業者が作った食べ物や飛ぶように売れましたよ。当時は何でもありで、トヨタキャッスルがカレーを売っていた頃もあったね。



——前夜祭の大禊ぎも最初から行ったのですか。

鈴木 禊ぎは天下祭が始まる前から地元で行われていたんですよ。八幡社の入口の建物の中に禊ぎ場があって、毎月1回やっていました。誰かに見せるわけでもなく。

——それは松平郷の地元の人だけで？

鈴木 そう、好きな人だけでね。1回こっきりでやめてしまう人もいれば、夏だけ来て冬になると来なくなる人もいた。

——今はやっていないのですか。

鈴木 ないない。あの禊を天下祭の行事にしちゃったからね。最初の頃は八幡社の禊ぎ場でやっていましたが、だんだん建物の中に入りきれなくなって、親氏公の銅像もできたことだしその前でやることになりました。

——開催が寒い2月なのは何故ですか。

鈴木 試験的に始めた第1回目は10月から11月の頭だったんですよ。あんまり寒いと人が集まらないだろうということですね。それがだんだん、節分に近いか、家康公の誕生日(1月31日)に近いとか、なんだか

んだの理由で2月になったんです。

——第1回目の雰囲気はどうでしたか。

鈴木 僕ら10人がサラシードで歩き回っているものだから、町内から「馬鹿だなあ、あいつらは」なんて言われ、親父からも「馬鹿な息子が何かやっとなるわ、たあーけらしい」なんて散々言われましたよ。第2回は昭和天皇が崩御された大喪の礼(2月24日)の時だったので、「お前ら天皇陛下が亡くなったのに何をやってるんだ!」と大ひんしゆくを買いましたね。ただ、僕らも華美にならないように、なるべく騒がないようにやっただですよ。裸にはなれないから餅つきだけやってね。それでも神社の中心で何かやっているのと怒られるわけですよ。

——新しい祭りですから言葉やすいですよ。

鈴木 最初に場所を借りるため、氏子さん、つまり町内の人たちに話をした時には、「春にお祭りがあるから、私たちはお手伝いできませんよ。迷惑をかけないようにやってください」と言われました。神職の一部の人だけが「神社を盛り上げるためだから」とお手伝いし

てくれました。でも、回を追うごとにだんだん町内でお手伝いしてくれる人が増えていきました。そのうちに神社の年間行事にチヨロつと書き加えてくれるようになり、今は2月第2週にしっかり書き込んであります。神社の祭礼として認めてもらえたんでしょうね。

——親氏が天下泰平を祈念して読み上げたという三十二文字の中から毎年一文字ずつを願文字として掲げ、平成31年が最後の三十二文字目でしたよ。

平松 そうです。令和2年から二回り目が始まりました。令和3年は新型コロナウイルスの第3波で大袈ぎや玉競りの中止を決めました。残念です。

——それにしてもワンクールが32年間というのは長いですね。

鈴木 天下祭を始めたときに「1年に一文字だと一回りするのに32年かかるぞ。俺たちそのとき生きてるのか?」なんて冗談を言っていましたよ。四文字ずつにして8年でワンクールにしようかという案もあったな。

——主役の座主は3人ですよ。どう決めているので

すか。

平松 現在は実行委員会の推薦で1人、青年会議所から1人、商工会議所青年部から1人です。実行委員会は松平地区の人だけでなく、いろんな地域の人がいますよ。最近では座主の経験者が恩返しをしようとして実行委員会に残ってくれるので、いい方向に向いていると感じています。天下祭が豊田市を代表するお祭りの一つになってきて、全国から参加してくれる人も増えてきたので、自分たちのやっているお祭りに誇りを持ってくれているのだと思います。

——今後はどのように続けていく考えですか。

平松 僕が実行委員長になって5年ほどになります。修行がだんだん緩くなって来ていると感じるので、もう一度そこを見直そうと思っています。高月院でお経を唱えることも新たにやりたい。先輩方に相談して新たに高月院の御朱印も作りました。でも基本スタイルは変えないほうがいいと思っています。先輩方がやってきてくれた天下祭の良さをうまく伝えていきたいですね。

